

小樽市健康増進計画「第2次健康おたる21」 中間評価と後期計画の考え方

資料 3

(1)がん・循環器疾患・糖尿病領域

(※ ↑は計画策定時に比べ数値が増加、↓は減少)

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出典〉	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
①がんの75歳未満の年齢調整死亡率の減少 (人口10万人当たり)	98.6 (平成22年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	96.4↓(※) (平成27年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	88.2 (平成28年度*) (*国のがん対策推進基本計画終期)	がん死亡率は減少傾向であるが目標値には達していない。 全国78.0、全道87.7であり、本市のがん死亡率は高い状況にある。 今後もがん検診受診率の向上への取組が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ●医療、職域、関係団体と連携し、健康教育の機会を活用し、がん予防及びがん検診の普及啓発、受診勧奨を行う。 ●特定健診との同時実施や土日に受診可能な機会を増やすとともに、町内会館等の身近な場所で受診できる体制を整備する。 ●より有効な周知方法を検討し、様々な媒体を活用し積極的に周知啓発を行う。
②脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少 (人口10万人当たり)	男性 50.0 女性 21.3 (平成22年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	男性 30.3↓ 女性 28.8↑ (平成27年度) 〈死因別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	男性 41.1 女性 19.1	男性の死亡率は大きく減少し、全国37.8を下回り、目標を達成している。 女性は死亡率が上昇し、全国21.0より上回っている。 今後も国保や後期高齢の保険者と協働した対策の継続が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ●特定健診・特定保健指導の普及啓発を、がん検診と併せた周知方法や、医療機関への通院者などを対象とした受診勧奨の方法を検討し、推進する。 ●特定健診とがん検診の同時実施の機会を増やすとともに、町内会館等の身近な場所で受診できる体制の整備を検討し、受診率向上に努める。 ●特定保健指導についても、プログラム、利便性などを検討するとともに、利用の勧奨を強化し、実施率の向上に努める。 ●健康づくりに有効なウォーキング方法やノルディックウォーキングを普及するため、市民ボランティアであるウォーキングサポーターの養成を継続する。 ●ノルディックウォーキングについて、様々な媒体を活用し積極的に周知啓発を行う。 ●市民への普及啓発を強化するため、職域及び関係団体との連携を強化し、協働でセミナーなどを開催する。 ●血圧自己測定について、健康教育の機会を活用し積極的に啓発する。 ●国保や職域との連携のもと、働く世代への取組みを強化する。 ●禁煙、受動喫煙の防止に関する普及啓発を、国保、医療、職域、各種団体を通して周知を行う。
③虚血性心疾患の年齢調整死亡率を増加させない (人口10万人当たり)	男性 115.0 女性 62.2 (平成22年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	男性 76.7↓ 女性 48.1↓ (平成27年度) 〈死因別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	男女ともに増加させない	男女ともに死亡率は減少し、目標を達成している。 全国の男性65.4、女性34.2より死亡率が高いため、今後も国保や後期高齢の保険者との協働した対策の継続が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくりに有効なウォーキング方法やノルディックウォーキングを普及するため、市民ボランティアであるウォーキングサポーターの養成を継続する。 ●ノルディックウォーキングについて、様々な媒体を活用し積極的に周知啓発を行う。 ●市民への普及啓発を強化するため、職域及び関係団体との連携を強化し、協働でセミナーなどを開催する。 ●血圧自己測定について、健康教育の機会を活用し積極的に啓発する。 ●国保や職域との連携のもと、働く世代への取組みを強化する。 ●禁煙、受動喫煙の防止に関する普及啓発を、国保、医療、職域、各種団体を通して周知を行う。

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出展〉	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
④糖尿病の年齢調整死亡率を増加させない (人口10万人当たり)	男性 9.6 女性 2.1 (平成21年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	男性 7.6↓ 女性 3.1↑ (平成27年度) 〈死因別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	男女ともに増加させない	男性の死亡率は減少したが、女性は増加している。 全国の男性5.5、女性2.5より死亡率が高いため、今後も国保や後期高齢の保険者と協働した対策の継続が必要である。	●小樽市の糖尿病についての状況を分析し、国保や後期高齢、職域保健との協働により、新たな対策について検討する。
⑤がん検診の受診率の増加	男性 胃 20.3% 肺 27.4% 大腸 24.3% 女性 胃 23.3% 肺 28.3% 大腸 24.2% 子宮 26.1% 乳 29.0% (平成22年度) 〈小樽市がん検診・特定健診に関する実態調査(小樽市国民健康保険加入者)(平成22年度)〉	男性 胃 21.6%↑ 肺 31.1%↑ 大腸 31.1%↑ 女性 胃 20.0%↓ 肺 38.0%↑ 大腸 34.0%↑ 子宮 21.0%↓ 乳 27.0%↓ (平成27年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート」(国保加入者)(平成28年度)〉	男女ともに 胃、肺、大腸は40% 子宮、乳ともに50.0% (平成28年度*) (*国のがん対策推進基本計画終期)	男性のがん検診受診率は上昇しているが、目標値には達していない。 受診勧奨の継続が必要である。 女性のがん検診は、胃・子宮・乳がんの受診率が低下した。 女性のがん検診受診率向上の取組が必要である。 未受診対策として、がんの正しい知識の普及に積極的に取組み、国保や各種団体と協働し、受診率の向上を目指す。	●がん検診の受診状況を分析し、がん検診の普及啓発、受診勧奨の重点勧奨を国保や各種団体と協働し実施する。 ●がん検診の個別受診体制の整備や協力医療機関を増やし、身近な場所で受診できる体制の強化に努める。 ●がん体験者によるがんの啓発のため、がん検診ボランティアの登録を行い、がんの啓発・普及の方向性を広げる検討をする。
⑥特定健康診査の受診率の増加	13.7% (平成23年度) 〈小樽市国保〉	16.0%↑ (平成27年度) 〈小樽市国保〉	60.0% (小樽市特定健康診査・特定保健指導第2期実施計画(平成25年度～29年度))	受診率は上昇したが目標値には達していない。 国保と連携し、健康意識の向上や健診の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。	●国保と連携し、特定健診の必要性について啓発するとともに、その内容等について周知し、受診率向上に向けた広報活動等を継続していく。 ●受診環境整備による受診行動の促進をすすめる。 (特定健診とがん検診の同時受診、休日受診など)

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出展〉	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
⑦特定保健指導の実施率の増加	13.3% (平成23年度) 〈小樽市国保〉	14.9% ↑ (平成27年度) 〈小樽市国保〉	60.0% (小樽市特定健康 診査・特定保健指 導第2期実施計 画(平成25年度～ 29年度))	実施率は上昇したが目標値には達していない。 今後も国保と連携し、未利用者に対する利用勧奨や、必要な方に対する受診勧奨を行い、早期からの生活習慣改善や重症化予防への取組を継続する。	●国保と連携し特定保健指導の重要性について啓発を継続する。 ●特定保健指導未利用者に対して電話や文書、訪問による利用勧奨を行うとともに、利用環境の整備に努める。 ●健診結果から医療が必要な方に対しては、医療機関への受診勧奨を行うなど国保とも連携しながら、重症化予防への取組を継続する。
⑧自宅などで血圧測定をする40歳代の割合の増加	21.1% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	17.2% ↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	増加	割合は減少し目標も達成していない。 40歳代で血圧計を持っている方は47.9%で、自宅での血圧測定の重要性と血圧計の選び方などの周知を継続的に実施する必要がある。	●国保や職域保健等と連携を図りながら、広報やパンフレット、各種イベント等により血圧測定の重要性について啓発を継続する。 ●血圧測定勧奨ポスターを作成し関係機関等に周知啓発する。
⑨40～50歳代の運動習慣を有する者の割合の増加	34.5% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	34.1% ↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	増加	割合は微減となり目標は達成していない。 職域保健との連携などにより、運動の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。	●職域での健康教育などで運動の必要性について啓発を継続する。 ●ウォーキングしやすい環境の整備やウォーキングサポーターの養成、派遣及びサポーターの活動支援を継続する。 ●職域保健と連携し、運動に関する情報提供に取り組んでいく。
⑩20～60歳代男性の肥満している割合の減少	31.4% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	32.6% ↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	28.0%	割合は増加しており、目標も達成していない。 職域保健との連携などにより生活習慣改善の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。	●職域保健との連携などにより、肥満と生活習慣病の関連や生活習慣改善の必要性について啓発を継続する。 ●特定保健指導等においても肥満の解消について指導を継続する。

目標	計画策定時数値 ＜数値の出典＞	中間評価 時点の数値 ＜数値の出典＞	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
⑪成人の喫煙率の減少	全体 19.1% 男性 25.2% 女性 15.4% (平成23年度) ＜健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)＞	全体 18.3% ↓ 男性 27.2% ↑ 女性 11.8% ↓ (平成28年度) ＜「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)＞	全体 12.0%以下 男性 18.2%以下 女性 8.4%以下	男性の喫煙率は増加したが、女性と全体では減少した。いずれも目標値には達していないため、がん予防、受動喫煙防止の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●受動喫煙防止について、正しい知識の普及を行うために、受動喫煙防止ポスターや受動喫煙防止ガイドラインの改正を実施し、関係機関に周知、啓発をする。 ●おいしい空気の施設登録数増加により、市民の禁煙に対する意識の向上を図ることで喫煙率の減少を推進する。 ●健康教育や保健指導においてもがん予防の観点から、禁煙、受動喫煙防止について周知、啓発を継続していく。 ●禁煙宣言の対象や内容の検討をし、禁煙支援の充実を図る。
⑫未成年者の喫煙をなくす	男性 12.2% 女性 2.2% (平成23年度) ＜健康づくりに関する市民健康意識調査(高校生)(平成23年度)＞	男性 10.2% ↓ 女性 1.3% ↓ (平成28年度) ＜「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(高校生)(平成28年度)＞	男女ともに0%	男女ともに喫煙率は減少しているが目標値には達していない。 学校教育との連携などにより喫煙防止、受動喫煙防止の周知、啓発を継続する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育を通して、薬物防止教室等の健康教育の周知、啓発を実施し、小中学校の健康教育実施件数を増加させることにより、正しい知識の普及を図り、未成年者の喫煙防止を推進する。
⑬未成年者の飲酒をなくす	男性 35.0% 女性 40.1% (平成23年度) ＜健康づくりに関する市民健康意識調査(高校生)(平成23年度)＞	男性 29.5% ↓ 女性 20.3% ↓ (平成28年度) ＜「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(高校生)(平成28年度)＞	男女ともに0%	男女ともに飲酒率は減少しているが目標値には達していない。 学校教育との連携などにより未成年者の飲酒防止の周知、啓発を継続する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育を通して、薬物防止教室等の健康教育の周知、啓発を実施し、小中学校の健康教育実施件数を増加させることにより、正しい知識の普及を図り、未成年者の飲酒防止を推進する。
⑭おいしい空気の施設登録件数の増加	65施設 (平成23年5月末)	133施設 ↑ (平成29年1月1日現在)	増加	登録施設は毎年増加し、目標は達成している。 今後も登録件数の増加に向け周知の取組を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ●広報紙やラジオ、各種イベント等での啓発活動を継続する。 ●登録要件に当てはまる施設については、手紙や電話、訪問により、個別登録勧奨をより強固に実施していく。

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
⑮食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店などの登録件数の増加	0件 (平成24年度)	7件↑ (平成29年1月1日現在)	増加	登録件数は増加している。 今後もさらに登録件数の増加に向けて普及、啓発を継続する。	●今後も登録件数の増加に向けて、関係機関と連携し周知、啓発を継続する。 ●登録用件に当てはまる施設については、登録に向け個別に勧奨・相談に応じていく。
⑯栄養成分表示の店の登録件数の増加	55施設 (平成23年度)	57施設↑ (平成29年1月1日現在)	増加	登録施設は微増。 今後もさらに登録施設の増加に向けて普及、啓発を継続する。	●今後も登録件数の増加に向けて、関係機関と連携し周知、啓発を継続する。 ●登録用件に当てはまる施設については、登録に向け個別に勧奨・相談に応じていく。
⑰食事バランスガイドを参考にしたい者の増加 ・1日当たりの食塩摂取量の減少 ・1日当たりの野菜摂取量の増加	49.2% 10.4g 133.7g 〈小樽市食育推進計画食育に関するアンケート(平成21年度)、健康づくりに関する市民意識調査(平成23年度)〉	80.2%↑ 9.3g↓ 196.5g↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価食育アンケート(平成28年度)〉	増加 食塩摂取量 8g 野菜摂取量 350g	食事バランスガイドを参考にしたい者、野菜摂取量は増加、食塩摂取量は減少している。 食塩、野菜摂取量は目標値に達していないため、今後も普及、啓発の取組みを継続する必要がある。	●食事バランスガイドについては食事バランスガイドを参考にしたい者が増加していることから、一定程度の認知度はあると思われる。 ●食塩摂取量や野菜摂取量は目標値に達してないことから、意識としてはあっても行動には結びつきにくい現状が考えられる。 ●今後はより実践しやすく、継続しやすい内容で事業や健康教育等で普及・啓発していく。

(2)精神保健領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
①自殺予防に関する相談機関の地域連携体制への参加登録件数の増加	26施設 (平成23年度)	54施設↑ (平成28年度)	増加	登録件数は増加している。 今後も増加に向けて周知を継続する。	●市民が気軽に悩みについて相談ができるよう街頭キャンペーンの実施や相談窓口の周知啓発、相談実務者に対する研修会を通じて相談機関地域連携体制を拡充する。 ●健康教育を通じて学校、企業、地域、関連団体にメンタルヘルスの大切さと相談窓口を普及啓発していく。

(3) 感染症領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
①麻しんワクチンの接種率を95%以上にする	1期 86.8% 2期 89.0% (平成23年度)	1期 91.0% ↑ 2期 94.7% ↑ (平成27年度) 1期 96.5% 2期 95.6% (平成28年度)	95.0%以上	接種率は1、2期ともに上昇しているが、目標値には達していない。 接種率向上のため、啓発及び未接種者への勧奨を継続する必要がある。	●接種率は目標値の前後で年度により変動がある。 ●乳幼児施設等関係機関との協力体制のもと、全体への啓発を実施すると共に、接種対象児への個別勧奨を継続実施する。

(4) 口腔保健領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出典〉	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
①3歳でむし歯のない者の増加	69.8% (平成23年度) 〈小樽市3歳児歯科健康診査結果〉	80.6% ↑ (平成27年度) 〈小樽市3歳児歯科健康診査結果(H25～H27の平均値)〉	80.0%以上 (85.0%以上)	むし歯のない3歳児の割合は増加し目標は達成している。 さらにむし歯のない3歳児を増やすため、周知、啓発を継続する必要がある。	●上の前歯の歯と歯の間のむし歯を減らすために歯間清掃用具の普及啓発を行った結果、目標値に達したため、新たな目標値を設定する。 ●後期計画では、引き続き歯間清掃用具の普及啓発を行い、それに加えて歯と歯肉のきわのむし歯を減らすために歯ブラシを使った効果的な清掃方法について普及啓発していく。
②12歳児の一人平均むし歯数の減少 *むし歯のない者の割合の増加	1.85本 *41.1% (平成23年度) 〈公立学校児童生徒の健康等に関する調査〉	1.5本 ↓ *58.4% ↑ (平成26年度) 〈同左〉	1.0本 *65.0%	一人平均むし歯数は減少しているが、目標値には達していない。 今後もむし歯の減少に向け啓発に取り組む必要がある。 また、一人平均むし歯数とともに、むし歯のない者の割合も注視していく必要がある。	●学校歯科医とともに健全な永久歯列を育むための情報を発信をしていく。(小学校低学年の親への情報提供)

目標	計画策定時数値 〈数値出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値出典〉	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
③40歳代で進行した歯周病を有する者の減少	30.9% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民意識調査(平成23年度)〉	25.9% ↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	25.0%	歯周病を有する者の割合は減少しているが、目標値には達していない。 今後も歯周病にならないための周知、啓発に取り組む必要がある。	● 歯科医師会、歯科衛生士会との会議を通して協働し、周知啓発を行う。 ● 特に歯周病発症予防について啓発する。 また小樽市健口講座として市民への講話を行う。
④60歳代で24本以上の自分の歯を有する者の増加	39.7% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民意識調査(平成23年度)〉	47.7% ↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	50.0%以上	24本以上自分の歯を有する者の割合は増加しているが、目標値には達していない。 今後も自分の歯を有する者の割合を増加させるための周知、啓発に取り組む必要がある。	● 歯科医師会、歯科衛生士会との会議を通して協働し、周知啓発を行う。 ● 特に口腔機能の維持について啓発する。 また小樽市健口講座として市民への講話を行う。

(5) 次世代の健康づくり

目標	計画策定時数値 〈数値出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値出典〉	目標値 (平成34年度)	中間評価	後期計画の考え方
①エイズ、妊娠・避妊について正しい知識を有する割合の増加	エイズ正解率 26.8% 妊娠・避妊正解率 65.5% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民意識調査(高校生)(平成23年度)〉	エイズ正解率 23.1% ↓ 妊娠・避妊正解率 69.9% ↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(高校生)(平成28年度)〉	増加	妊娠・避妊に関する正解率は増加したが、エイズ正解率は減少した。 今後も正しい知識の普及のため、関係機関と連携して健康教育などを実施していく必要がある。	● 関係機関との連携により、小・中・高校生に対する健康教育を継続していく。